

第47回分析化学における 不確かさ研修プログラム

—受講者募集—

主催 日本電気計器検定所、(公社)日本分析化学会
測定結果の信頼性の指標としての不確かさの評価がますます重要となってきています。日本分析化学会においてもエキスパートワークショップやセミナー等によりその普及と教育に努めてきました。

また、日本電気計器検定所(JEMIC)は、「計量標準等トレーサビリティ導入に関する標準化調査研究委員会」と「計測標準フォーラム人材育成WG」が共同で開発した不確かさ研修プログラムにより不確かさの研修を実施してきました。

日本電気計器検定所と日本分析化学会は、これらの不確かさ研修を参考に2006年、「楽しく・簡単に・解かり易く」をテーマとして、不確かさの計算が分かりやすく理解できるように演習を多く取り入れた「分析化学における不確かさ研修プログラム」(2日間コース)を開発しました。

この研修では、

- ・受講者1人1人が理解することを最優先に考えたセミナー
- ・「楽しく簡単に解かり易く」不確かさの計算方法を解説
- ・多くの演習問題を解くことで講義内容を十分理解できる
- ・複数の講師が演習問題を通して、各受講者の理解のお手伝いをする。

ことを特徴としています。講師が一方向的に説明や講義を行うのではなく、受講者の理解度を確認しながら対話方式を進めていきます。

本セミナーはハイブリッド型で開催しますので、オンライン参加も可能です。遠方のお客様もお気軽にご参加ください。ハイブリッド型の詳細は、日本電気計器検定所のホームページをご覧ください。

https://www.jemic.go.jp/gizyutu/j_keisoku.html

期日 2026年7月2日(木)・3日(金)

会場 日本電気計器検定所本社〔東京都港区芝浦4-15-7、電話：03-3451-1205、交通：JR「田町」駅芝浦口(東口)から徒歩約13分または都営浅草線・都営三田線「三田」駅A4(JR田町駅方面)出口から徒歩約15分〕

https://www.jemic.go.jp/kihon/m_honsha.html

対象者 不確かさの計算方法を初歩から学びたい方・不確かさの計算方法を社内教育等の参考にしたい方

講義内容

第1日(9.30~16.30)

1. イントロダクション
2. 演習：温度の測定
3. 不確かさとは何か？(不確かさの概要や必要性など)
4. 用語について1(JIS K 0211:2013 分析化学用語(基礎部門)の説明)
5. 不確かさ評価の概要(タイプAとタイプBの不確かさの違いなど)
6. タイプAの不確かさ評価(タイプAの標準不確かさの求め方)
7. 演習：タイプAの不確かさ評価(タイプAの標準不確かさを求める演習)
8. 確率分布について1(タイプBの評価に用いられるさまざまな確率分布について)
9. タイプBの不確かさ評価(タイプBとしてどのような不確かさの要因があるかと具体的な数値化の説明)
10. 演習：タイプBの不確かさの要因(タイプBの要因を考察するグループ演習)
11. 確率分布について2(確率分布に応じた除数の説明)

12. 用語について2(不確かさの評価/計算に必要な用語の説明)

第2日(9.30~16.30)

《初日のおさらい》

13. 不確かさの合成と拡張(タイプAの標準不確かさとタイプBとして評価した不確かさの合成とその拡張の説明)
14. 演習：不確かさの合成と拡張(合成標準不確かさと拡張不確かさを求める演習)
15. 実際の不確かさ評価の事例紹介(水道水中のナトリウムの測定)
16. 演習：間違い探し
17. 総合演習：拡張不確かさまでの計算
18. 不確かさの利用について(ILACの示す不確かさを考慮した適合性表明の指針の説明と実際に適合性表明に不確かさを用いている例と技能試験の紹介)
19. 確認テスト

募集定員 24名(定員に達し次第、締め切ります)

参加方法 会場参加またはオンライン参加のいずれかを選択できます。

申込締切 2026年6月25日(木)

受講料 会員64,900円(日本分析化学会会員、JEMIC計測サークル会員)、会員外75,900円
※テキスト代、消費税を含みます。

受講証明書の発行 受講者には「分析化学における不確かさ研修プログラム」を受講し、講習を受けたことを受講証明書を主催団体から発行します。

合格証明書の発行 確認テスト合格者には、日本電気計器検定所から合格証明書を発行します。

申込方法 次のいずれかの方法でお申し込みください。なお、電話での申込は受け付けません。

1. 日本電気計器検定所のホームページ(https://www.jemic.go.jp/gizyutu/j_keisoku.html)の「申込みフォーム」に必要事項を入力してください。
2. 日本電気計器検定所のホームページ(https://www.jemic.go.jp/gizyutu/j_keisoku.html)から「分析化学における不確かさ研修プログラム」用の受講申込書をダウンロードし、必要事項を入力の上、E-mailに添付してお申し込みください。

送金方法 受講申込みをいただきますと、日本電気計器検定所から受講票と請求書をお送りしますので、指定口座に受講料をお振込みください。振込手数料は貴方でご負担ください。なお、受講料の返金はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

個人情報 本セミナーの受講申込みにより取得したお客様の個人情報は、本セミナーに係る連絡に利用するほか、次の目的のために利用することがあります。なお、お客様のお申出により、これらの取扱いを中止させることができます。①JEMIC計測技術セミナーに関するお知らせ、②各種校正試験業務、検定業務、基準器検査業務等に関するお知らせ、③定期刊行物の発送、購読期限および会員の集いに関するお知らせ

喫煙に関するお願い 日本電気計器検定所では、健康増進法「受動喫煙の防止」の趣旨に従い、全館禁煙となっておりますので、ご了承ください。

申込・問合せ 〒108-0023 東京都港区芝浦4-15-7 日本電気計器検定所JEMIC計測技術セミナー事務局(担当：長谷川)〔電話：03-3451-1205、E-mail：kosyukai-ky@jemic.go.jp〕

第 93 回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会
第 131 回計測自動制御学会力学量計測部会
第 43 回合同シンポジウム

主催 (公社)日本分析化学会有機微量分析研究懇談会
共催 (公社)計測自動制御学会力学量計測部会
協賛 (公社)日本分析化学会, (公社)日本化学会, (公社)日本薬学会

期日 2026 年 6 月 26 日 (金)・27 日 (土)

会場 徳島文理大学高松駅キャンパス ムラサキキネンホール
プログラム

6 月 26 日 (1 日目)

13.00~開場・受付

14.00~開会の挨拶

14.10~15.10 Plenary Lecture 1

PL-01 第二世代結晶スポンジ法 (東京大学卓越教授)
○藤田 誠

15.20~16.20 Oral Presentation

(一般: OG-, 若手: OY-)

OG-01 ブランク定数にもとづく 1 kg のつくり方 (産業技術総合研究所) ○倉本直樹, 狩野祐也, 大田由一, 藤田一慧, 大久保章, 稲場 肇, 張ルウルウ, 東 康史

OG-02 MEMS 気圧センサアレイを用いたインフラサウンド計測手法の検討 (山梨大学) ○野田善之, 清水元輝, 小島桃子

OG-03 天秤の環境設定と計量精度, 安定時間への影響 (ラドワックジャパン) ○福留健司

16.30~17.10 Oral Presentation

OG-04 定量 NMR 法 (qNMR) による水溶液中におけるピロキノリンキノン分子種の挙動解析と定量への応用検討 ((一財)日本食品分析センター) ○加藤 毅, 實岡美樹, 山本佳奈, 水口恵美子, 阿部泰子

OG-05 イオンクロマトグラフィーによる有機材料中のヨウ素の分析 (その 2) (日本大学理工学部) ○吉川賢治, 鈴木聖哉, 長嶋 潜

17.30~18.30 企業プレゼンテーション 自由討論

6 月 27 日 (2 日目)

9.00~9.45 Oral Presentation

OY-01 曲がる結晶の分子設計: 芳香族スルホンアミド結晶の屈曲現象の構造的起源について (東邦大薬) ○遠田知克, 吉川晶子, 川幡正俊, 氷川英正, 東屋 功

OY-02 トリフルオロメチル置換ベンゾイルピラゾロン誘導体による水溶液からのリチウムイオンの選択的抽出 (金沢工業大学) ○圓子詩乃, 大嶋俊一, 鈴木保任, 坂本宗明

OY-03 水溶液系からの Li (I) 選択的分離に資するベンゾイルピラゾロン誘導体群の合成と系統的評価 (金沢工業大学大学院) ○今野聖士, 大嶋俊一, 鈴木保任, 坂本宗明

9.55~10.40 Poster Preview Presentation

(一般: PG-, 若手: PY-)

PG-01 ISO/IEC17025 試験所認定維持活動を通じた無機分析の信頼性確保のための取組 (コニカミノルタ) ○西淵貞敏, 松井絵里

PG-02 ミクロ電子天びん技術研修会小委員会の活動報告 (ミクロ電子天びん技術研修会小委員会) ○長井賢一郎, 大井博己, 加藤 毅, 酒井達子, 坂田文恵, 佐々木典子, 下平尚子, 鈴木恵子, 長澤珠貴, 板東敬子, 古家圭人, 松崎 剛

PG-03 NMR や MS では評価できない化合物に対する元素分析の有効性 (東京大学大学院薬学系研究科¹, 東京大学大学院工学系研究科²) ○目鳥幸一¹, 原 正宣², 劉

家濠¹, 藤丸朋也¹, 高橋講平², 尾谷優子¹, 大和田智彦¹

PG-04 イオンクロマトグラフィーによる南関東ガス田内およびその周辺の温泉水中のヨウ素の分析 (日本大学理工学部) ○吉川賢治, 橋本 遥, 長嶋 潜

PG-05 蛍光 X 線分析法を用いたハロゲン及び硫黄の分析事例 (日本化薬ファインケミカルズ研究所) ○下平尚子, 上堀創一

PG-06 オオキンケイギク花部から単離された新規ピフラバノン Lanceolanone A の量子化学計算による絶対配置決定 (東京薬科大学中央分析センター) ○深谷晴彦, 松尾侑希子, 三宅克典, 三巻祥浩

PG-07 1,4-ジアリールテトラヒドロフラン型リグナン の立体配置解析に関する計算化学と NMR の統合的手法 (徳島文理大学) ○原田研一, 江角朋之, 植木正二

PG-08 芳香族スルホンアミドの結晶におけるらせん状ネットワーク構造 (千葉大学共用機器センター) ○榎飛雄真, 丸山紘輝

PG-09 発光性アリアルホスフィンオキシド中のエチニレンが結晶構造および発光特性に与える影響 (甲南大学理工学部) 昆野龍之介, 片桐幸輔

PG-10 内壁アンカーを実装した一次元チャンネル型ホストによる一ジオキサン三列テープ集合体の形成 (昭和薬科大学¹, 徳島文理大学²) ○川幡正俊¹, 兵頭 直², 富永昌英², 山口健太郎²

PG-11 X 線構造解析に適した単結晶は設計できるか? —Packing Material 法による共結晶誘導と品質評価— (東邦大薬) 遠田知克, 吉川晶子, 氷川英正, 東屋 功

PY-01 プロモピラジン部位をもつ V 形分子による包接結晶における X 形モチーフ構造の生成 (徳島文理大学) ○森田健聖, 川幡正俊, 兵頭 直, 富永昌英, 山口健太郎

PY-02 多様な環状ホスト分子によるピルビン酸メチルの包接と単結晶構造解析 (徳島文理大学) ○伊瀬知世, 兵頭 直, 富永昌英, 山口健太郎

PY-03 多孔質環状結晶によるイソプレンの吸着と配座制御 (徳島文理大学) ○矢部はなの, 兵頭 直, 富永昌英, 山口健太郎

10.50~11.35 Poster Presentation Core Time 1 (P-□□奇数)

11.35~12.20 Poster Presentation Core Time 2 (P-□□偶数)

12.20~13.50 Exhibition booth/Lunch time

ムラサキキネンホールエントランスに分析機器や消耗品等が展示されています。

13.50~15.20 中央機器室見学

15.40~16.40 Plenary Lecture 2

PL-02 慢性骨髄性白血病における最新の治療戦略 (徳島文理大学香川薬学部教授) ○椿 正寛

17.45~19.45 技術研修会

参加登録費 ①主催・共催及び協賛学会会員: 4,000 円 (5 月 15 日 (金) まで), 5,000 円 (5 月 16 日 (土) 以降), ②非会員: 6,000 円, ③学生: 2,000 円, 講演要旨集のみ (送料込): 3,000 円

技術研修会費 主催・共催および協賛学会会員, 非会員: 6,000 円, 学生: 3,000 円

申込・問合先 〒769-2193 香川県高松市浜ノ町 8-53 徳島文理大学薬学部 山口健太郎 [E-mail: orgmicro-sympo@jsac.ac.jp]

詳細は, 日本分析化学会有機微量分析研究懇談会の HP

(<https://orgmicro/sympo2026/>)

第 421 回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会

後援 (公社)日本化学会, (公社)日本農芸化学会, (公社)日本分析化学会

近年、カーボンニュートラルや資源循環の推進、PFAS 規制をはじめとする環境規制の強化を背景に、持続可能な社会の実現に向けた材料評価および環境分析の需要が高まっています。特に、リサイクル材料の品質管理や環境中微量汚染物質の分析においては、分離・検出技術の役割がより一層重要となっています。本例会では、高分子材料や環境関連物質を対象に、LC を中心としたアプリケーションを紹介します。

期日 2026 年 7 月 16 日 (木) 13.00~16.50

会場 (株)島津製作所東京支社イベントホール〔東京都千代田区神田錦町 1-3, 交通: ①地下鉄: 都営新宿線小川町駅, 東京メトロ千代田線新御茶ノ水駅, 東京メトロ丸の内線淡路町駅 B7 出口より徒歩 6 分, 東京メトロ銀座線神田駅より徒歩 10 分, ②JR 神田駅西口より徒歩 10 分〕

<https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/company/access/tokyo.html>

講演主題 持続可能な社会に向けた LC 分析技術

講演

講演主題概説 (オーガナイザー) (13.00~13.05)

(日本電子(株)) 山本敏人

(LC 分析士二段, LC/MS 分析士初段)

1. PFAS 分析における最近のトピックス~告示法改正への対応など~ (13.05~13.35)

(栗田工業(株)) 榎本幹司

(LC 分析士三段, LC/MS 分析士三段)

2. PFAS 分析における高分解能質量分析の優位性 (13.35~14.05)

((一財)日本食品検査) 橘田 規

(LC 分析士三段, LC/MS 分析士四段)

3. 疑似二次元 LC による生分解性ポリマー分析—三元系移動相を用いた分離アプローチ (14.05~14.35)

(三菱ケミカル(株)) 芹澤昌史

(2026 年度 LC 分析士初段受験申込予定)

4. SEC と高分解能 MALDI-TOFMS を組み合わせた効率的な合成高分子キャラクタリゼーション (14.35~15.05)

(日本電子(株)) 佐藤貴弥

(LC 分析士初段)

休憩 (15.05~15.20)

5. 有機材料分野における質量分析イメージングと高分解能 LC/MS/MS の活用事例 (15.20~15.50)

(浜松医科大学/株)プレッパーズ/

エムエス・ソリューションズ(株) 高橋 豊

(LC 分析士二段, LC/MS 分析士五段)

6. サステナブルな分析へのアプローチと事例 (15.50~16.20)

(株)島津製作所) 寺田英敏

(LC 分析士三段, LC/MS 分析士初段)

7. 総括「持続可能な社会に向けた LC 分析技術」(16.20~16.50)

(東京理科大学) 中村 洋

(LC マイスター, LC/MS マイスター)

参加費 ①学生: 1,000 円, ② LC 懇・個人会員: 2,000 円, ③ LC 懇・団体会員: 3,000 円, ④後援学会・個人会員: 4,000 円, ⑤後援学会・団体会員: 4,500 円, ⑥その他: 5,000 円 (領収書の発行は、送金月日にかかわらず 2026 年 7 月 16 日以降となります。請求書は発行しません。)

参加申込締切後の受付はできませんので、ご了承ください。

なお、日本薬学会会員として申込みされる方は、参加申込 URL の後援学会欄に日本薬学会が表示されていることをご確認のうえお申込みください。まだ表示されていない場合は、表示されるまでお待ちください。

情報交換会 終了後、講師を囲んで情報交換会を開催します (会費 5,000 円)。参加申込締切後のご参加はできませんので、参加希望者は必ず事前にお申し込みください。

参加申込および参加費等納入締切日 2026 年 7 月 8 日 (水) (入金締切時刻: 15 時まで)

申込方法

- 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、勤務先 (電話番号)、LC 会員・協賛学会会員・その他の別および情報交換会参加の有無を明記のうえ、お申込みください。なお、参加者名と振込者名が違う場合は、参加申込書の連絡事項欄に振込者名を明記してください。
- お申込みが完了した場合には、登録されたアドレス欄に「第 421 回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付 (自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場合は、①入力したご自分のアドレスに間違いがないか、②迷惑メールフォルダーをご確認のうえ、世話人までお問い合わせください。
- 申込み受付のメールを受領後、必ず期限内に研究懇談会参加費、情報交換会費の納入を行ってください。期限内に納入が確認できない場合、お申込みを無効とし参加 URL を発行しませんので、十分ご注意ください。当日払いは受け付けません。なお、いったん納入された参加費は、返金いたしません。
- 参加費の納入が確認できた方には、2026 年 7 月 10 日以降に要旨集をメールにてお送りいたします。必要に応じてプリントアウトしてご参加ください。なお、請求書の発行はいたしておりません。

液体クロマトグラフィー研究懇談会 (例会) 参加費送金時のご注意

例会参加費、情報交換会費を送金される場合、下記を禁止しておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

- 複数例会の参加費の同時振込 (→例会ごとに振り込んでください)
- 複数参加者の参加費の同時振込 (→参加者ごとに振り込んでください)
- 年会費や他の費用との合算振込 (→費目ごとに振り込んでください)

申込先 <https://forms.gle/BnKHnX6MGM2Nd7Vb7>

(学生申込者は、所属欄に大学名、学部、学年を記載)

銀行送金先 りそな銀行五反田支店 (普通) 1754341, 口座名義: シヤ) ニホンブンセキカガクカイ [公益社団法人日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会]

問合せ先 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会 世話人 日本電子(株) 山本敏人 [E-mail: toyamama@jeol.co.jp]

第 37 回分析化学基礎実習 —微量分析実験技能実習コース—

主催 (公社)日本分析化学会関東支部

自動化された機器分析が発達した現在、材料分析や環境分析において、容量分析やピペットなど化学用体積計を用いた湿式の微量化学分析の技能をもつ研究者・技術者は著しく減少しつつあります。しかしながら、湿式化学分析は、化学量論に基づく化学反応により簡便に分析値を提供するという点で重要な役割を果たしているのは今も変わりません。計測・解析が自動化された分析機器から得られる分析値が、どの程度正しいのか、

また試料の測定条件を正しく整えられているかなどを最終的に判断できるのはやはり人であり、そのような機械任せにならない分析技術者になるためには、湿式の微量化学分析の基礎技能の習得・経験が欠かせません。

そこで日本分析化学会関東支部では実際に容量分析の技能を修得していただくことを目的として本講習を企画しました。また今後の国際的な分析試験所認定制度への対応も図れるように、本講習を受講して実技試験に合格した受講者には、日本分析化学会ならびに日本分析化学会関東支部から、実技試験に対応した分析分野に関して実務者レベルの修了証を発行します。

本修了証書は、セミナー参加者の所属機関が試験所認定を受ける際に、基礎分析化学に関する技術的教育を受けたことの実績として認められます。

奮ってご参加ください。

日時 2026年8月27日(木) 9.30~18.00

2026年8月28日(金) 9.30~17.00

(修了証の受領には両日とも全日参加することが必要です)

会場 東京理科大学神楽坂キャンパス10号館2階(実験室)
〔東京都新宿区神楽坂1-3, 交通: JR/メトロ「飯田橋」駅(西口・神楽坂口より徒歩10分程度), メトロ「市ヶ谷」駅(有楽町線・南北線・都営新宿線)市ヶ谷田町駅出口より徒歩7~8分程度〕

対象者 化学分析実務を担当している技術者で、実習後も化学分析を担当する予定の者。

目的 分析技術の修得・向上ならびに試験所認定へ向けての教育・訓練。

講習内容 天秤による秤量操作, ホールピペット, ビュレットなど化学用体積計の基本操作, キレート滴定の標準液の調製と標定および飲料水の硬度(Ca^{2+} , Mg^{2+})測定への応用, 分析値の解析。

募集定員 30名程度。定員に達ししだい締め切ります。

受講料(税込) 日本分析化学会会員(含団体会員)45,000円, 会員外65,000円。テキスト代含む。

持参するもの 第2日目に測定する飲料水試料(市販品, 水道水など500 mL程度。誤飲防止のため, 飲用に適さないものは不可), 白衣, 防護用めがね, 筆記用具。

判定 第2日目に実技試験を行い, その合格者には「環境水中の微量分析」に関する実務者レベルの修了証を日本分析化学会ならびに日本分析化学会関東支部から発行します。

講習内容

第1日目 8月27日(木) 9.30~18.00

1. 挨拶 9.50~10.00 (東京理科大学) 由井宏治

2. 容量分析の基本操作 10.00~11.30

(日本大学) 四宮一総

3. 容量分析用標準液の調製 13.00~14.50

(東京理科大学) 鈴木崇広

4. 容量分析用標準液の標定 15.00~17.00

(Yoshikawa Science Laboratory) 吉川裕泰

第2日目 8月28日(金) 9.30~17.00

1. 飲料水の硬度測定 9.30~12.00

(Yoshikawa Science Laboratory) 吉川裕泰

2. 実技試験用試料測定 13.00~15.00

(日本大学) 四宮一総

3. 修了証授与・アンケートご記入 15.30~17.00

(東京理科大学) 由井宏治

※講義内容および講師は予定です。

受講申込方法 日本分析化学会関東支部ホームページをご参照ください。お申込みは2026年8月7日(金)まで(<https://kanto.jsac.jp>)

送金方法 受講申込の際にご案内した期間内に、指定口座へ受講料をお振り込みください。振込手数料はご負担ください。なお、ご希望の方には請求書発行いたします。また、納入後の受講料は返金いたしかねます。

ので、あらかじめご了承ください。

問合先

講習内容に関する問い合わせ先:

東京理科大学理学部化学科 由井宏治 yui@rs.tus.ac.jp

お申込みに関する問い合わせ先:

日本分析化学会関東支部事務局 kanto@jsac.or.jp

第39回新潟地区部会研究発表会

—講演募集—

主催 (公社)日本分析化学会関東支部・同新潟地区部会

期日 2026年10月30日(金) 13時から

会場 米百俵プレイス ミライエ長岡〔新潟県長岡市大手通2-3-10, 電話:0258-86-6008〕

プログラム

1. 特別講演

2. 一般講演

3. ポスター発表

一般講演・ポスター発表申込方法 電子メールに一般講演・ポスター発表の別, 講演題目, 発表者名(講演者に○印), 所属, 連絡先を記入のうえ, 下記のURLサイトより, 締切日までにお申し込みください。

第39回新潟地区部会研究発表会 URL

<https://sites.google.com/view/39th-acniigata>

一般講演の申込締切日 2026年8月14日(金)

ポスター発表の申込締切日 2026年9月18日(金)

要旨提出締切日 2026年10月16日(金)

参加費 無料

申込・照会先 〒950-2181 新潟市西区五十嵐二の町8050

新潟大学工学部 狩野直樹〔電話:025-262-7218,

E-mail: kano@eng.niigata-u.ac.jp〕

—以下の各件は本会が共催・協賛・
後援等をする行事です—

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

第 81 回表面科学基礎講座 「表面・界面分析の基礎と応用」

主催 日本表面真空学会
期日 2026年6月1日(月)~30日(火)
会場 オンライン
ホームページ
<https://www.jvss.jp/ja/activities/04/detail/00027.html>
連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-16 石川ビル
5階 (公社)日本表面真空学会事務局 [電話:03-3812-0266, E-mail:office@jvss.jp]

電気化学セミナー A 「初心者のための電気化学測定法 - 基礎編」

主催 (公社)電気化学会
期日 2026年6月19日(金)~7月2日(木)
会場 オンデマンド配信による動画セミナー
ホームページ
<https://www.electrochem.jp/seminar/>
連絡先 〒101-0065 東京都千代田区西神田3-1-6 日本弘
道会ビル7階 (公社)電気化学会事務局 原優美子 [電話:
03-3234-4213, E-mail:seminar@electrochem.jp]

プラズマ分光分析研究会 2026 筑波セミナー 認証標準物質を使いこなそう

—「正しい値」を出すための試料前処理から測定まで—

主催 プラズマ分光分析研究会
期日 2026年7月2日(木)・3日(金)
会場 つくば国際会議場 中会議室 202
ホームページ
<https://plasma26070203.peatix.com/>
連絡先 〒192-0392 東京都八王子市堀之内1432-1 東京薬
科大学生命科学部分子生命科学科生命分析化学研究室 プ
ラズマ分光分析研究会事務局 大関杏子 [電話:042-816-
3001, E-mail:ozeki@plasma.es.titech.ac.jp]

第 38 回イオン交換セミナー 「挑戦するイオン交換 X」

主催 日本イオン交換学会
期日 2026年7月10日(金)
会場 東京都立産業技術研究センター本部東京イノベーション
ハブ
ホームページ <http://www.jaie.gr.jp>
連絡先 〒135-0064 東京都江東区青海2-4-10 東京都立
産業技術研究センター 梶山哲人 [電話:03-5530-2671,
E-mail:seminar@jaie.gr.jp]

第 14 回対称性・群論トレーニングコース Training course on symmetry and group theory

主催 日本結晶学会
期日 (英語講義)2026年7月13日(月)~7月17日(金)
(日本語講義)2026年7月27日(月)~7月31日(金)
会場 高エネルギー加速器研究機構つくばキャンパス4号館
セミナーホール
ホームページ
<http://pfwww.kek.jp/trainingcourse/>
連絡先 〒305-0801 茨城県つくば市大穂1-1 高エネレ
ギー加速器研究機構 物質構造科学研究所 放射光実験施設
高橋良美 [電話:029-879-6196, E-mail:tyoshimi@post.
kek.jp]

日本金属学会オンライン教育講座 「イオンビームを用いた材料解析技術の基礎と応用」

主催 (公社)日本金属学会
期日 2026年7月15日(水)・16日(木)
会場 オンライン (Zoom) による講義
ホームページ
<https://www.jim.or.jp/seminarsymposium/>
連絡先 〒980-8544 宮城県仙台市青葉区一番町1-14-32
(公社)日本金属学会 セミナー・シンポジウム参加係
[電話:022-223-3685, E-mail:meeting@jim.jp]

第 63 回 (2026 年度) 真空夏季大学

主催 日本表面真空学会
期日 2026年9月2日(水)~5日(土)
会場 八王子市生涯学習センター
ホームページ [https://www.jvss.jp/ja/activities/
16/detail/00033.html](https://www.jvss.jp/ja/activities/16/detail/00033.html)
連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-16 石川ビル
5階 (公社)日本表面真空学会事務局 [E-mail:03-3812-
0266]

第 45 回日本糖質学会年会

主催 日本糖質学会
期日 2026年9月14日(月)
会場 パピヨン24(福岡市)
ホームページ
<https://pub.conf.atlas.jp/ja/event/jsr45>
連絡先 〒819-0395 福岡市西区元岡744 九州大学大学院農
学研究院 生命機能科学部門海洋資源化学分野内 沖野 望
[電話:092-802-4706, E-mail:nokino@agr.kyushu-u.ac.jp]

2026 年度日本地球化学会第 73 回年会

主催 (一社)日本地球化学会
期日 2026年9月15日(火)~19日(土)
会場 京都大学

ホームページ <https://www.geochem.jp/annual-meetings/latest-annual-meeting>
 連絡先 (一社)日本地球化学会 [E-mail: soumu@geochem.jp]

第75回ネットワークポリマー講演討論会

主催 合成樹脂工業協会
 期日 2026年10月28日(水)~30日(金)
 会場 東京科学大学横浜キャンパス
 ホームページ <https://www.jtpia.jp/>
 連絡先 〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-10-4 丸ビルディング6F 合成樹脂工業協会 ネットワークポリマー講演討論会事務局 [電話: 03-5298-8003, E-mail: atsushi.otaki@jtpia.jp]

第42回近赤外フォーラム (第10回アジア国際近赤外シンポジウム(ANS2026)) The 10th Asian NIR Symposium (ANS2026)

主催 Asian NIR Consortium (ANC)
 期日 2026年11月11日(水)~13日(金)
 会場 沖縄県市町村自治会館
 ホームページ <https://pub.conf.it.atlas.jp/en/event/ans2026>
 連絡先 〒305-8642 茨城県つくば市観音台2-1-12 農研機構食品研究部門内 近赤外研究会事務局 池羽田晶文 [電話: 029-838-8057, E-mail: office@jcnirs.org]

VACUUM2026 真空展

主催 日本真空工業会, 日本表面真空学会, 日刊工業新聞社
 期日 2026年11月18日(水)~20日(金)
 会場 東京ビッグサイト
 ホームページ <https://biz.nikkan.co.jp/eve/vacuum/>
 連絡先 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 日刊工業新聞社 イベント事業本部 第一イベント事業部 平井尚美 [電話: 03-5644-7221, E-mail: autumnfair@nikkan.tech]

「分析化学」年間特集「薬」論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より年間特集を企画してきました。2027年は「薬」をテーマとして募集を行います。

基礎・応用を含めた医薬品分析に関する“最新の知見”はもちろん、医薬品分析に関する“研究の背景”をまとめた総合論文や総説を広く募集します。

さらに、薬のみならず、薬により引き起こされる生命現象(例えば、薬の投与による生体内物質の変動など)を対象とした分析研究についても論文を募集します。薬と分析の関わりを幅広い視点から捉え、分析化学が担う役割を社会に向けて発信することを目的とします。

本特集に関わる論文はすべての論文種目で年間を通じてご投稿いただくことが可能で、審査を通過した論文は単行の特集号

を除く「分析化学」第76巻(2027年)合併号の冒頭に掲載する予定です。国内外、産学官を問わず、「薬」に関わる分析化学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。

特集論文申込締切: 2026年7月17日(金) (第1期)
 特集論文原稿締切: 2026年8月21日(金) (第1期)

「分析化学討論会」特集の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」誌では、毎年第12号に分析化学討論会特集号として、分析化学討論会の討論主題に関連した論文を掲載しております。第86回分析化学討論会では、「生体膜と分析化学」、「医療・健康に貢献する薬系分析の役割と展望」、「分析化学を通じた溶液化学と熱測定との融合」、「バイオ×分析化学:現象の可視化と社会実装の架け橋」、「食品のおいしさと分析化学:おいしさの可視化を目指して」、「オンサイト分析で探る環境科学」の6テーマを討論主題として取り上げました。

2026年度分析化学討論会特集号では、「課題解決型イノベーションを支える分析化学」をテーマにしました。本テーマにおいて、第86回分析化学討論会で設けた6つの討論主題に関する論文を広く募集します。多数のご投稿をお待ちしております。詳細は分析化学誌のホームページをご確認ください。

特集論文の申込締切: 2026年7月10日(金)
 特集論文の原稿締切: 2026年8月7日(金)

「分析化学誌」特集

“イオンクロマトグラフィーの技術進展と新規開発”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、イオンクロマトグラフィー研究懇談会(IC懇)と共同で「イオンクロマトグラフィーの技術進展と新規開発」と題した特集を企画しました。

本特集号では、方法論の新規開発、試料の前処理・後処理技術、性能向上技術など、ICに関わるイオン分離定量法だけでなく、ICの幅広く様々な分野への応用や適用例に関する論文も募集しております。幅広い分野からの論文投稿をお待ちしています。詳細は分析化学誌のホームページをご確認ください。

特集論文申込締切: 2026年8月28日(金)
 特集論文原稿締切: 2026年10月16日(金)

「分析化学」編集委員会特集 “産学官連携で広がる分析化学”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」誌では、毎年第6号に「編集委員会特集」として特集号を企画しています。2027年度(第76巻)の「編集委員会特集」のテーマは、「産学官連携で広がる分析化学」に決定いたしました。高度に複雑化・多様化している社会課題の解決に向けて、専門分野や組織の異なる研究者同士が協働して研究を推進することの重要性がより一層高まっています。

上記状況に鑑み、産学官、産学、学官、および産官での連携研究や、今後共同研究に発展させたい研究成果に関する論文を募集いたします。社会実装に至った研究開発事例、実用化を見据えた分析技術や分析装置・デバイスに関する研究成果、今後産学官での連携に発展させたい研究シーズに関する内容など、産

学官連携研究の輪を広げる多数の論文の投稿をお待ちしております。詳細は分析化学誌のホームページをご確認ください。

特集論文申込締切：2026年10月3日（土）

特集論文原稿締切：2026年12月5日（土）

初めて書く論文は母語の日本語で！ 「第25回初執筆論文特集」募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、2026年（第75巻）に第25回「初執筆論文特集」を企画し、下記要領で論文を募集します。卒研究生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。なお、2025年より本特集名を「若手初論文特集」から「初執筆論文特集」と変更しました。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載になり次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。

なお、詳細は「分析化学」誌HPをご参照ください。

自分のアイデア、研究成果を自由に表現できる母語の日本語で、初めての学術論文執筆にチャレンジしてください。先生や先輩に指導をいただいて、論文作成法を習得する良いチャンスにもなります。これは大変貴重な経験であり、次の新たなステップにつながることでしょう。このチャンスは一度しかありません。多数の方々からのご投稿をお待ちしております。

「分析化学」の掲載料についてのお知らせ

「分析化学」誌では、2020年4月より論文掲載料を以下の計算式にしたがってお支払いいただき、pdfファイルを進呈することになりました。なお、論文の別刷を希望される場合は、別途別刷頒布料金をお支払いいただくことにより購入することができます。

掲載料金計算式（P：印刷ページ数）（単位：円）

会員の場合：30,000 + 5,000 × (P - 4)（印刷ページ数が14ページ以上は一律80,000円）

会員外の場合：40,000 + 5,000 × (P - 4)（印刷ページ数が14ページ以上は一律90,000円）

*上記に消費税がかかります。

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に着ける必要があると考えます。

このような背景に鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
 - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
 - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
 - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
 - 4) 分析に必要な試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
 - 5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、
 - 6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性：本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会 [E-mail: bunseki@jsac.or.jp]

「お知らせ」欄原稿について

支部並びに研究懇談会の役員の皆様：掲載用の原稿ファイルをどうぞ電子メールでお送りください。送り先はshomu@jsac.or.jpです。原稿の長さには制限はありませんが原稿締切日は掲載月の前々月25日（例：1月号掲載→11月25日締切）となっておりますのでご注意ください。

本会外から掲載をご希望の場合は以下をご参照ください。

- 1) 掲載できるものは本会が共催、協賛、後援するものに限られます。
- 2) 国際会議につきましては共催、協賛、後援申請に関する規程並びにフォームがありますので、ホームページをご覧ください。か、本会事務局長宛にお問い合わせください。
- 3) 国際会議以外の講演会等に関しましては、会名、会場、主催団体名、同代表者名、開始期日、終了期日、連絡先並びに同電子メールを記載のうえ、書面でお申し出ください。
- 4) 掲載原稿の作成要領に関しましては承諾をご返事する際にお知らせします。
- 5) 本会支部または研究懇談会が共催、協賛、後援を承諾した事業につきましては、その旨をメールにお書きいただき、原稿ファイルをshomu@jsac.or.jpにお送りください。

国際会議以外の共催、協賛、後援に関する規程抜粋（共催）

8. 討論会、講演会等の共催とは、その討論会、講演会等の開催について、本会は主体性を持たず、会誌等を通じて広報活動等の援助を行う場合をいう。
9. 本会が討論会、講演会等を共催する場合は、その討論会、

講演会等の主要議題が本会の専門分野と関連を持ち、本会正会員が会議の準備、運営等の委員に若干名加わることを条件とする。

10. 本会が共催する討論会、講演会等に対しては、他学協会長等の申し出によって会誌等による広報活動の援助を行う。特に理事会の承認を得て分担金を支出することがある。(後援又は協賛)
11. 討論会、講演会等の後援又は協賛とは、本会がその討論会、講演会等の開催に賛同し、後援又は協賛団体の一つとして、本会名義の使用を認める場合をいう。
12. 本会が討論会、講演会等を後援又は協賛する場合は、その討論会又は講演会が分析化学に関連を持ち、その開催が本会会員にとっても有意義であることを条件とする。
13. 本会が後援又は協賛する討論会、講演会等に対しては、希望に応じ会誌等による広報活動の援助を行うことがある。

『ぶんせき』再録集 vol. 3 出版のお知らせ

日本分析化学会の機関月刊誌『ぶんせき』の再録集 vol. 3 が出版されました！初学者必見！質量分析・同位体分析の基礎が詰まった 293 ページです。

本書は書籍化の第三弾として、「入門講座」から、質量分析・同位体分析の基礎となる記事、合計 42 本を再録しました。

『ぶんせき』では、分析化学の初学者から専門家まで幅広い会員に向けて、多くの有用な情報を提供し続けています。これまで掲載された記事には、分析化学諸分野の入門的な概説や分析操作の基礎といった、いつの時代でも必要となる手ほどきや現役の研究者・技術者の実体験など、分析のノウハウが詰まっています。

〈2003 年掲載 1 章 質量分析の基礎知識〉

1. 総論
2. 装置
3. 無機物質のイオン化法
4. 有機化合物のイオン化法
5. ハイフェネーテッド質量分析 I
6. タンデムマススペクトロメトリー
7. 無機材料の質量分析
8. 生体高分子の質量分析
9. 医学、薬学分野における質量分析法
10. 食品分野における質量分析法
11. 薬毒物検査、鑑識分野における質量分析法
12. 環境化学分野における質量分析法

〈2009 年掲載 2 章 質量分析装置のためのイオン化法〉

1. 総論
2. GC/MS のためのイオン化法
3. エレクトロスプレーイオン化—原理編—
4. エレクトロスプレーイオン化—応用編—
5. 大気圧化学イオン化
6. 大気圧光イオン化
7. レーザー脱離イオン化
8. イオン付着質量分析
9. リアルタイム直接質量分析
10. 誘導結合プラズマによるイオン化
11. スタティック SIMS
12. 次世代を担う新たなイオン化法

〈2002 年掲載 3 章 同位体比分析〉

1. 同位体比の定義と標準
2. 同位体比測定の精度と確度
3. 同位体比を測るための前処理法
4. 同位体比を測るための分析法
5. 生元素の同位体比と環境化学

6. 重元素の同位体比
〈2016 年掲載 4 章 精密同位体分析〉

1. 同位体分析の基本原理
2. 表面電離型質量分析計の原理
3. 表面電離型質量分析計の特性とその応用
4. ICP 質量分析法による高精度同位体分析の測定原理
5. マルチコレクター ICP 質量分析装置による金属安定同位体分析
6. 加速器質量分析装置の原理
7. 加速器質量分析の応用
8. 小型加速器質量分析装置の進歩と環境・地球化学研究への応用
9. 二次イオン質量分析装置の原理
10. 二次イオン質量分析計を用いた高精度局所同位体比分析手法の開発と応用
11. 精密同位体分析のための標準物質
12. 質量分析を用いた化合物同定における同位体情報の活用

なお『ぶんせき』掲載時から古いものでは 20 年が経過しており、執筆者の所属も含め現在の状況とは異なる内容を含む記事もありますが、『ぶんせき』掲載年を明記することで再録にともなう本文改稿を割愛しました。これらの点については、執筆者および読者の方々にご了承いただきたく、お願い申し上げます。